
桜の舞う季節に.....。

ウォーター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の舞う季節に……。

【Nコード】

N9581G

【作者名】

ウォーター

【あらすじ】

桜の舞う季節に、少女は考えていた。いなくなってしまった少年のことを……。蘭の一人称です。初投稿なので駄文ですが、宜しくお願いします。

こんなにも美しく咲き誇る桜を見るのは何度目なのかな……。

新一が私の前から姿を消して、数ヶ月が経とうとしている……。だけど、新一は、私の前に一向に現れる気配は無い……。たまに姿を現したって、何時も一瞬で……。直ぐに私の前からいなくなってしまうの……。

ねえ、新一……。何時になったら、新一と一緒にこの桜を見れるのかな……。私、新一がいないと、不安で押し潰されそうになるの……。

4月も中旬に入り、暖かい日が続いたお陰で、私達の街は桜の花が咲き誇り、如何にも春らしい、暖かくて、そして優しい雰囲気にもまれ始めたの……。でも私の心は、この雰囲気とは正反対に、まるで永遠に終わらない冬のように、冷たく凍り付いているの……。だって、何時も私の横にいてくれる、あの推理オタクの姿が無いんだもん……。

あの日……新一と一緒にトロピカルランドに行った日から、新一は私の前から姿を消したの……。私は、その日から、何かが崩れ落ちたような気がした……。それが一体何なのか、最初はよく分からなか

ったの……。

でも、新一がいなくなった今となつては、それが一体何なのか、私にはハッキリと分かるようになったの……。そう、それは……。

“新一が何時も^{いつ}当たり前に私の傍^{そば}にいてくれる日常”だったの……。

私は、新一が何時も私に、あの輝くような笑顔を与えてくれることを当たり前のように思っていたの……。でも、そんな当たり前が、今はもう無い……。私は今になって、この有り難^{あがた}さを痛感したの……。新一がいなくなった今になって、“新一”の存在がどんなに大きかったか、私は今になって分かったの……。

ねえ、新一……。

今あなたは、何処で何をしていますか……。元気でやっていますか……。怪我をしていますか……。私のことを、忘れないでいてくれますか……。何時帰って来ますか……。私は、新一に逢いたい……。新一に逢つて、自分の本当の気持ちを伝えたいの……。そして、又一緒に、この桜を見たい……。新一と2人で……。

「新一……逢いたいよ……。」

そして、木の枝から離れ、静かに冷たいコンクリートに落ちて行く桜の花びらを見ながら、私は静かに泣いた。今はいない、新一のこ

とを思いながら……。

（後書き）

こんにちは。そして初めまして。ウォーターです。今回、初めてこの小説を執筆させて頂きました。初めてということもありまして、誤字や表現ミス等を沢山しており、大変読みにくい作品になってしまいました。又、だいぶ季節もズレてしまい、全く季節感が無い作品です。本当に申し訳ありません。それでも、目一杯愛（？）は注ぎ込みましたので、楽しんで頂ければ幸いです。本日は有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9581g/>

桜の舞う季節に.....。

2010年10月12日17時11分発行